

10月のイベントカレンダー

日	曜日	内容	掲載面
1日	土		
2日	日	第48回 区民まつり	9月号
3日	月		
4日	火	BCG予防接種	3面
5日	水		
6日	木		
7日	金	法律相談	3面
8日	土		
9日	日		
10日	月・祝		
11日	火	ひったくり防止カバー無料取付キャンペーン 移動図書館巡回日(北津守小学校)	9月号 4面
12日	水	こどもの歯の健康講座(子ども・子育てプラザ)	4面
13日	木	地域結核健診(もと今宮小学校運動場) 行政相談 移動図書館巡回日(南津守小学校)	2面 3面 4面
14日	金	花と緑の相談	3面
15日	土	みんなの健康展	1面
16日	日	区民体育レクリエーション大会	9月号
17日	月		
18日	火	法律相談	3面
19日	水	地域結核健診(山王集会所)	2面
20日	木		
21日	金	不動産相談	3面
22日	土	乳がん検診、骨量検査	3面
23日	日	日曜開庁	1面
24日	月	大腸がん・肺がん検診、特定健康診査、歯科相談	3面
25日	火	フードライブ・ごみ減量3Rコーナー	3面
26日	水		
27日	木	乳がん検診、骨量検査	3面
28日	金		
29日	土		
30日	日	えいごであそぼう！(子ども・子育てプラザ) ちょちょヴァナ 2022・秋～野点+妄想屋台+作業場～	4面 3面
31日	月		

区長の部屋 バナナと世代交代

3年前、郷里の徳島でビニールハウスにバナナを植えました。年末年始の寒さで枯れたように見えてましたが、復活してちゃんと花を付けて見事な房が実りました。難しいと思っていただけに嬉しさもひとしおでした。

ただ、バナナはいちど実をつけるとその幹はもうおしまいです。でも、新しい芽を根元から伸ばし株の更新をしていきます。次の代へと世代交代していくわけです。

まちづくりも似たようなところがあって、若手を伸ばすには、どこかで思い切ってバトンタッチすることが大事だと思う昨今です。

区政や区長に対するご意見、ご感想をお待ちしています。通常3日以内のご返事をめざしています→nishinarikucho@gmail.com



西成区長 **とみなが まさひろ**
正廣

西成情報局

区政会議 各部会・フィールドワークを開催しました

西成区は区政会議 西成特区構想部会、情報発信部会、教育部会を開催しています。より良い区政運営に活かすため、各部会のアンケートで決定したテーマ(西成特区構想部会「ごみの問題」、情報発信部会「西成区の情報発信」、教育部会「子育て環境」)について、委員から意見をお聴きしました。

第2回各部会開催後に、より活発な意見交換につなげるため、区内の取組の様子を見学しました。



地域福祉活動の支援にかかる協議を行いました

8月26日(金)に、(社福)大阪市西成区社会福祉協議会と「地域福祉活動の支援にかかる連携協定書」に基づく協議を行いました。今後とも区役所と区社会福祉協議会の双方が連携・協働していきます。



隔月で人権コラムを掲載します。今回のテーマは「高齢者の人権」です。

人権コラム

認知症を知ろう～安心して暮らせるまちをつくるために～

杉原 久仁子さん(大阪人間科学大学教授)



最近「認知症」という言葉をマスコミなどで見聞きしない日はないくらい、よく耳にしますね。認知症は今や誰もががなってもおかしくない病気です。2025年には約700万人(高齢者の約5人に1人)が認知症になると予測されています。

認知症ではないかと疑うのは、①記憶と他の認知機能低下が重なっている。そのことで、②仕事や日常生活に支障が出る。さらに、③半年から1年の間に悪くなっているなどの条件が重なったときです。また、認知症という病名があるわけではありません。認知症は状態の総称であり、具体的にはアルツハイマー型認知症、血管性認知症などの病名があります。

病名の中で一番多いのは、アルツハイマー型認知症です。主な症状は、記憶障害、見当識障害(時間、場所、人がわからなくなる)、理解・判断力の障害、実行機能障害(計画を立ててやるのが苦手になる)などがあります。記憶障害については、少し前のことを覚えるのが苦手になります。小さい頃のこと、昔のことなどは覚えていることが多いのです。また、体が覚えているものや、感情を伴う記憶も残りやすいと言われてます。ですから、たとえ記憶障害があってもすべてを忘れるわけではありません。

かつて「認知症になったら家族はしんどいが、本人はラクなのではないか」と言われていた時代がありました。皆さんはどう思われますか?認知症になって一番不安に感じているのは、認知症のご本人です。自分がどうなっていくかわからない、家族のことも忘れていくのだろうかという不安や恐怖を感じておられます。しかし、それを上手に表現できないため、イライラ感や怒りなどで表現する方もおられます。

認知症になるリスクを減らすには、バランスの良い食事、適度な運動、趣味、楽しみのある生活が必要です。私はこれらに加えて、柔軟な考えを持つ、人に頼ることができる、「〇〇しなければいけない」という考えを持たないことなども必要なのではないかと考えています。認知症になって、いろいろなことができなくなる自分を受け入れるということも大切です。「自分だけは絶対認知症にならない」とは言えません。そのためには普段から「自分が認知症になったときには、〇〇したい」という希望を周囲にお伝えしておくのもよいと思います。また、大事なものは1か所にまとめる、なじみのお店を決める、車でなく「歩く」へ変えるなど日ごろの生活習慣も考えてみましょう。「もしかして認知症かな」と思ったときに相談できる相手、相談にいける場所(地域包括支援センターなど)も調べておきましょう。

認知症はその人の一部であって全てではありません。認知症で全てを失うわけでもありません。何もわからない人ではなく、表現が苦手になっている人だと考えてみましょう。その人がもっている優しさは認知症になっても変わりません。

認知症ケアは、個人でがんばる時代ではなく、地域のチームで支える時代です。そのためには、皆さんが認知症について正しく理解することが大切です。認知症の人にやさしい地域は、住民すべてにとってやさしい地域であると言えます。

10月にしなりのジャガピーパーク

●もと津守小学校・幼稚園

●出張開催(丸数字)
(2日 西成区民まつり 15日 もと今宮小学校)

詳細は、にしなりジャガピーパークのホームページなどでお知らせします。

問合せ 保健福祉課(子育て支援)
5階52番窓口
☎6659-9824

日	月	火	水	木	金	土
						1
2						8
9						15
16						22
30						29

